

令和5年第11回 吉田町教育委員会

- 1 開催期日 令和5年10月23日(月)
開会 午後 1時30分
閉会 午後 4時40分
- 2 場 所 吉田町役場 5階会議室2
- 3 出席委員 塚本 成男 北澤 雅恵
増田 真也 中村 成宏
- 4 議場に出席した者の職氏名 学校教育課長 糸田 真男 生涯学習課長 中山 孝宏
学校教育課長補佐 山村 加奈子 主席指導主事 水嶋 浩之
指導主事 平井 奉子 学校教育課統括 川本 貴浩
- 5 傍聴人数 0人

次 第 (会議録概要)

- 1 開 会
- 2 教育長の報告 資料No.1
- (1) 報告事項 10月の教育委員会の行事について
(2) 町内教職員の状況 特別休暇取得者について
(3) その他 研修視察訪問について ほか
- 3 会議録署名委員の指名 北澤委員
- 4 議 事
- (1) 報告事項
- ア 生徒指導について 【非公開】 資料No.2
- イ 第2回吉田町部活動の在り方協議会について 資料No.3
(委員からの意見・質疑)
- ・部活動の休日の移行は令和8年度実施の予定で、平日については、令和9年度

以降協議をした上で進めていくという案でよろしいか。⇒ 現段階の案としてはそのとおりだが、文部科学省で出された方針を町の案としているので、今後協議して詰めていく。

- ・具体的に、部活動の活動内容を把握し、部活動の在り方協議会委員が分かるようにした方がよいと思う。子供たちが何を目標にやっているのか、大会で勝つレベルを目指すのか、なにかしらを地域の人と一緒にやりたいという同好会のようなものなのか。そこをはっきりさせないと話が進まないと思う。先生たちも個々に意見を聞いた方が、練習場所や必要なものなど意見が出てくるとし、それを解決するのにどうするかという話ができると思う。目指すレベルにより指導者も変わってくると思うので、そのあたりが見えてくると、もう少し整理ができてくると思う。
- ・今全国でやっているのは、部活動がなくなる、切り離すことが前提だと思うので、今やっているものがなくなるとして、その時地域でどう子供を育てるかといったときに、今まで部活動でやってきたことは、地域でできる範囲で対応していくという話だと思う。方針を明確に出さないと話が進んでいけないので、そこを明確にしてもらいたい。
- ・地域の人が、今の中学生への指導の仕方を理解していないと、移行後が心配。指導者バンクの設置を前倒して、指導者が見に来ることを始めて、いろいろな意見をいただいた方がよいと思う。
- ・事務局説明で方針を示すというところまでいってないのか。⇒ 年度内に第3回の協議会を実施する予定で、そこである程度示すことができればと思う。
- ・掛川市の取組事例にある公認地域指導者資格の設立は必要だと思うので、どうやって立ち上げていくのが興味深い。
- ・公認地域指導者資格の設立は、賛成している。希望する種目ができる先生は限られるし、経験のない種目を指導している先生が大半だと思う。学校が部活動を支えていることは、本当はおかしなことだと思う。
- ・協議会では、皆の意見を聞いている段階だと思うが、どの段階で方向を示す予定なのか。⇒ 今はまだ検討段階だが、方向性を示していかないと動いていけないので、明確にしたいとは思っている。

(2) 協議事項

ア 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果（公表）について 資料No.4

（委員からの意見・質疑）

- ・結果の状況からみると、レベルの高い子が扱うものを用意するとか、取りこぼさないように支援するクラスを用意するとかは、学校に任せるだけでなく教育委員会でも考えていく必要があるのではないかと思う。

- ・ICTの学習というのは、取りこぼさない、かつ、個別に伸ばしていけるでいいのか。⇒ 授業改善を試行錯誤しながら取り組んでいる先生たちの感想を聞けば、上が伸びているのは間違いない。みんな、どんどんやっていけるようになっている感じはしている。質を高めるためにやっていくことが大事で、全体として取り組んでいかないといけない。
- ・課題となる問題の正答率13.9%というものに対して、先生たちの意識はどういう認識があるのか。⇒ 今やっていることと照らし合わせながら調査を見ていて、まさに一步一步サイクルを回して、課題を設定しているのだけれども、追究の課題になっていないというところも挙げている。情報の収集で教科書をしっかり読むということをやっている結びつけるというの、やっぱりできていないということが分かったので、そういうところを徹底的にしっかりやっっていかなければいけないというところを先生たちは挙げている。もちろん、それぞれの学校によって少し課題が違ってくるところもあったので、他にも分析をしている。みんな総じて今やっていることの精度を上げるというのを徹底するというところを挙げている。
- ・今回の報告の中で課題となる問題というのを挙げてもらったのはありがたい。表とかそのものを出したって、なかなか実質的にどう問題は解けていないのかは、問題を見ない限り分からないので。概要を知るの表そのものでいいけど、実際に解けないとか難しさはどういうところにあるのかは、毎年毎年変わっていく問題にどう対応していくかは、問題を出さないと、解かないと分からないと思うので、この方法は良いと思う。
- ・教育の方向がガラッと変わったわけではないので、それでも結果としては、平均より上だったり下だったりすることがあるので、点数の平均というのが、どこまで信用できるのかというのは難しいと思う。
- ・他の市町はよく過去問をやるとか、それがいいのかどうか分からないが、目の前にいる子たちにどんな授業をすれば、もっと深く理解して勉強して、いい結果が出るような勉強ができるのか。毎年、結果、結果と言われてしまい、あまり言いたくないが、やり方によっては上げていけるのか。⇒ 訓練をすれば上がります。
- ・この資料は公開するのか。⇒ 11月6日の町政連絡会で報告する。
- ・今度公開する中央小学校と吉中の全教職員研修会では、単元構想を組んでいて、一番最初に単元でできるようになりたい問題というのを、パフォーマンス課題というが、そのパフォーマンス課題を設定するのが良いのではないかと言っている先生たちが増えている。そこに学調に出てくるような問題が参考になり、こういうストーリー性のある問題を最終的には解けるようにならなくてはいいけない。では、この授業の中で、1時間どういうふうに授業を組んでいくといいのではないかということで、数学など教科が限られてくるので、みんなとはいかないけれども、似たような形で構想すること、考えることはできるので

はないかという話は、最近、授業と結びつけながら学力を上げるというところで、やり始めている。

イ 吉田町教育大綱について 資料No.5

(委員からの意見・質疑)

- ・基本方針2の四角の説明文「誰もが、人生を豊かで充実していくことができるよう」というところは、「充実したものにできるよう」とか「充実したものにしてい」など、言い回しが少し違うような気がする。
- ・基本方針3の『支える』機会の充実」とは、どういう意味か。⇒ スポーツをする人、観る人、支える人。大きな大会に行くとボランティアであるとか、指導者であるとか、そういった方々がこのスポーツを「支える」に入ってくる。国の方でそうした文言を使っている。
- ・基本方針2の「豊かで充実していくことができるよう」という表現は、「心豊かに学び続け」で、心豊かに学び続けるということは、どういうことか。⇒ 学び続けることによって、心豊かになるということを感じているので、また検討する。
- ・学ぶ、心豊かになる、豊かになっているいろいろな視野が広がって、また学ぶとか、そうやって考えればいいのではないか。学びは終わるわけじゃないので、全部連環している、スパイラルなので。
- ・心豊かな気持ちを持って学び続けるという気がする。好奇心あふれるとか、心豊かな気持ちを持てば。
- ・心豊かな「豊か」と、誰もが人生を豊かで充実していくことができるの「豊か」は、同じ「豊か」なのか。「誰もが」というくらいなので、ここでいう「豊か」というものは、なんとなく皆が共有できる「豊かさ」、お金だとか、心だとか、何か。基本方針には、「心豊かに学び続ける」とあるが、この「豊かさ」って何なのか。
- ・いろいろなものに興味を持つということか。周りが見えるというか。
- ・深く考えたりとかできる方が楽しい。やれることが多い方が、豊かである。知識が乏しかったり、経済的に苦しいと、やれることが少ないので、それではつまらない。そういった意味では、いろいろなことができる、知っているのは、可能性が広がっていく方が豊かになる。
- ・学べば可能性が広がり豊かになる。学ぶことで豊かになる。
- ・スポーツ、例えば、スキーやスケートでもなんでも、ちょっとできるとできることが増えていき、そうすると可能性が広がって楽しくなる。これができれば、また別の競技に出会うこともあるかもしれないし、そういうことがその人の人生を豊かにするし、面白みを感じて、それが学ぶということで、それは知識も同じではないか。
- ・生涯学び続けることで豊かになる、心豊かに学び続けるということが、この表現で解釈できるのか。

- ・心豊かにとというのがあると、豊かさが増すような印象がある。 ⇒ 事務局で検討して、11月22日の総合教育会議で協議する。
- ・基本方針4の①の「文化資源」という言葉は、あまり耳にしない。例えば「文化的な資源」というならあると思うが、「文化資源」という言葉は、社会教育用語でそういうものがあるのか。 ⇒ これについては、現在、法規において「文化資源」という言葉を使っている。「観光資源」であるとか、そういった括りと同じような形で「文化資源」という言葉がある。
- ・基本方針には、文化・芸術に親しむ活動となっているが、①が「地域に根付いた伝統行事や文化資源を保存し、活用するとともに、郷土への愛着と郷土を誇りに思う心を育む活動を推進する」と、ここで言っている文化資源の「文化」と、基本方針4の文化・芸術活動に親しむ活動の推進の「文化」というのは、同じ内容と捉えてよいか。この「文化」には、伝統行事も含まれているか。 ⇒ おっしゃるとおり。加えて文化財も入っている。
- ・基本方針4の「文化」を「伝統文化」にしたら、狭義の文化になってしまうのか。 ⇒ 伝統行事は各地域にあるが、お祭り関係、奴などは、文化財の方で指定されていない段階のものになる。その他、地蔵院の百万遍などの行事は文化財に指定されているという違いがあるので、伝統行事と文化資源という両方の意味合いは持つと考える。
- ・基本方針3と基本方針4でスポーツと文化・芸術に分かれてるが、四角の中の「いつまでも生き生きとした人生を送るためには、スポーツを楽しむことが大切です。」と、言い切っている。文化の方も「いつまでも潤いのある心豊かな人生を送るためには、ふるさとを愛する心を育むとともに、感性や創造性を磨くことが大切です。」と言い切っていることに、少し抵抗感がある。「ことが」が「ことも」だといいと思う。生き生きとした人生を送るためには、スポーツを楽しまなければ、楽しむことがすごく大事だよ、大切だよと言っているのであって、そこまで言い切っているのか。
- ・基本方針2は「いつまでも生きがいのある人生を送るためには」、基本方針3は「いつまでも生き生きとした人生を送るためには」、基本方針4は「いつまでも潤いのある心豊かな人生を送るためには」と、同じ「ためには」になっているのだけれども、これをまとめた、何のためにやるかが何かというと、基本方針1から流れるとするならば、「豊かな人生を送るためには、一人一人が、夢や希望を抱き、それらをどのように実現していくのかを考え行動し続けることが大切です。」にかかっているのか、かかっていないのか、共通なのか、並列なのか。突然「ためには」というのが出てくるので、これはどこから出てきたのか。学びを生かす生涯学習を推進しますという結論から逆算して、この「何のために」ということが出てきている。本来は、それが上にあって、そのためにはこういうふうにしましょうという話だと思う。基本方針1でいうと、「豊かな人生を送るためには」というならば、「豊かな人生を送る」というのがどこかの方針の中

にあれば、そのためにこうだということになるのだけれども、逆算していった豊かな人生って出てきたみたいな印象である。⇒ 現行の大綱もこの書き方で、基本的にはまず基本方針があって、その基本方針をより深めていくための説明文という形になっている。何々するためにはという目的を最初に出しておいて、そのためにはこういうことが必要。だから、こういうことを推進するというという文型、形を整えているのをそのまま踏襲しているの、それを今の基本方針に合わせたような文言に変えている。これまで、教育推進委員会で3回議論した中で、島田桂吾先生やいろいろな有識者の方を交えて議論している。11月には総合教育会議で議論する予定となっている。基本はこれをベースにということで御承知いただきたい。

ウ TCPトリビンスプランについて 資料No.6

(委員からの意見・質疑)

【指標について】

- ・資料No.6-2の指標のB案の1は、いずれも子供が主語になっているが、そうでない方がいいと思う。教職員と保護者とで、それぞれがどう感じているかということ測った方がいいと思うので、B案は違うと思う。C案のPの1のところは分かりにくいと思ったので、資料No.6-1で「子供が楽しく」というのは、非常にすっと入って来るので、この6-1の指標案がいいと思う。
- ・安心して子育てができるというのは、客観指標では求めにくいのではないかとと思う。それを聞くよりは、楽しく学校へ通っているとか、子育てのサポートを受ける環境があると感じているというような、主観を大事にすることの方がいいと思う。

【施策について】

- ・トイレの洋式化やLED化は、ほぼ終わっているが、継続して載せ続けるのか。⇒ TCPの最初の目玉なので、掲載し続けたい。
- ・SDGsは、掲示されないのか。⇒ 総合計画の中には、全ての施策においてSDGsのことが関わっており、教育にも全部かかっている。
- ・目標が「子供、教職員、保護者が共に元気になり、三者にとって魅力ある教育を実現する」となると、そもそも何のための教育改革を言えば、子供のためなのではないかと思っていて、そもそも子供のために、吉田町の子供を健全に育成していくために、TCPトリビンスプランはできているという表現が、どこかでうたわれぬか。⇒ 新しくつくる冊子の「はじめに」のところに、TCPトリビンスプランのことについて説明する部分があるので、そこに子供のための施策という表現を加えて、入れたいと思う。
- ・Pのオの二番目の町P連絡協議会による事業への支援はどういうものか。⇒ 教育講演会への支援。具体的にはお金の補助である。今年度の町Pの連絡協議会はGoogleの協力の下、情報リテラシーについて実施した。
- ・ICT支援員の配置は、来て欲しいときに来てくれているのが、先生たちにと

ってすごくいいことである。時間外の音声電話対応や学校閉庁日 15 日間も先生方にいいことである。

5 その他

- ・教育委員報告（“ぎゅっと”カーよしだについて：増田委員）
- ・堀田龍也教授招聘研修について
- ・今後の教育委員会等の予定について

6 閉 会